

奥能登入浴支援活動 総集編(紙上報告会)

=2月1日から3泊4日・3クール 延べ13人派遣=

奥能登入浴支援プロジェクトは、石川県輪島市の避難所支援に携わっている「災害NGO結」から、避難所の要援護者支援のため入浴支援チーム派遣の要請があって、長野県介護福祉士会と長野県社会福祉協議会の共同で、また辰野町社協、塩尻市社協、須坂市社協の協力を得て、1月下旬急遽結成。準備期間はたった1週間という短期時間で調整等も難航したが所期の目的を達成し一旦終了とした。

派遣は、原則3泊4日で中2日を活動日とし1チーム4~5人で構成、延べ13人の介護福祉士等を派遣した。その内訳は、松塩筑木曾老人福祉施設組合3人、須坂市社協3人、塩尻市社協2人、訪問介護ケアタウン東御殿の湯2人、戸倉デイサービスゆいっこ1人、その他(現在休職中)2人であった。派遣直前の体調不調やコロナ感染等もあり人選の変更も余儀なくされた。

入浴車は、辰野町社協が提供。塩尻市社協は入浴車のメンテナンス及び運転とオペレーターを担い、須坂市社協は運転とオペレーターを担った。派遣とは別に山ノ内町社協は温泉を奥能登の介護施設に搬送・提供した。

事務局は県社協と県介護福祉士会が担い、情報共有や後方支援は「能登入浴支援隊」のライングループを構成し、活動報告とそれらをまとめた「奥能登入浴支援プロジェクト速報」は10号まで発行した。

※ 災害NGO結は、令和元年台風第19号災害の際、長野市内の外部支援団体のまとめ役を担った団体

派遣職員からの主な報告・コメント・課題・要望等

杉本裕美子 (第1・3クール)



本日はベースキャンプから10分程の老健さんへ行きました。

竹下さんがご報告くださったように、特浴を利用されている方々でしたので、車イス→ストレッチャー→浴槽→ストレッチャー→長椅子…と、お一人につき4回の平行移乗があったため、なかなかハードな対応となりました。

施設の特浴が、お湯を入れたら使える…とのことで準備しましたが、電源は入るものの可動せず、どうも地震で浴槽が歪んで不具合が出てしまったようで、結果的に平行移乗の場面が2回増えてしまいました😓

ずいぶん昔の特浴を思い出させる入浴支援でした😊

入浴された方の中には、泣きながら“きのどくな〜”と喜ばれる方もいて、1日気合で乗り切れました😊 (きのどくな…は、能登の方言でありがとう、申し訳ないでという意味だそうです)

第2クールのみなさん、最終日までお疲れさまでした👏

入浴支援、施設さんについては水の確保ができれば、もちろん人手は不足している中とは思いますが、スペースやらも考えるとまだ現地の方々でもなんとかかなと思います。個人のお宅はそもそもの支援要請の段階から、厳しいものがありますよね😓

昨日午後のるみさんも、避難所の支援員さんが、困っているんじゃないか…と気付いてくれて、トムさんにつながったそうです😓

最初にくみさんの支援に入った時も、どうやってお願いすればいいかわからなかったし、お願いしちゃいけない気もして…というお話をしていました😓

在宅のニーズをうまくつなげていく仕組みや、それに合わせて支援を継続できる体制、ここは専門職の役割のように思いますね😓

第3クールで終わりにしてしまってもよいのかな…となりますね😊

勝山 祥典 (第1クール)



本日はダンプに乗って水汲みに行きました施設の職員が入浴介助してくれたお陰です後発隊の方々にも頑張って頂ければと思います

ぼらっちさん tadashi さんは午前午後ひたすら介助お疲れ様でした

寝泊まりする環境はかなり厳しいです。寒いし床が硬い…。でも、結の方々とはとても温かく活動を支えていただいています。入浴の直接支援はしていませんが、限られた人数でやろうとするなら、ダンプの運転できる人がいいかと…。

竹下 正 (第1クール)



本日はシャワー浴だけでしたが、現地スタッフさんからの協力、情報が無いと厳しい面が有ります。

また、シャワー浴だけでなく訪問入浴スタイルで行なう場合は機械の取り扱い、浴槽のセッティング、片付けなど慣れないと時間要すると思います。

ご利用様に関しましては感染症などの情報などナースさんの協力も大事かと思えます。あと水のダンプからの供給が重要なので運転含め人員配置も配慮お願い致します。

本日は老健施設に入浴支援に入りました。午前中5人訪問入浴形式で入浴いただきました。

午後は7人訪問入浴形式入浴。杉本さん現地スタッフさん竹下で入浴介助。須山さん勝山さんで入浴車オペ給水サポートしていただきました。

午前中は立位ができ軽介助で、二人体制で対応しましたが、午後は介護度高いご利用様で立位不可、3人体制にて移乗行いました。高身長、ウェイト高めで移乗はかなり負荷かかります。

また、時間制限もありスタートするとノンストップ介助になります。

須山 範一 (第1クール)



午前はNGO 結さんに希望が上がっていた個人宅に伺いシャワー浴を提供。障害のある女性の方でしたが、最近お父様を亡くされていて、辛いことが重なっていたとの事。今回の地震で1ヶ月入浴でき

ていなかったが入れたことでとても喜んでいただきました。同居されているお母様も娘の笑顔を久しぶりに見た、とお話しされていました。

午後は、輪島市の特養ゆきわり荘に訪問しシャワー浴を提供。職員の皆さんの地震発災からの過酷な状態もお聞きしました。杉本さんと竹下さん、施設の職員の皆さんで協力しながら、17名の利用者様にご利用をいただきました

この入浴車提供のお話ですが、NGO 結様がNHKに取材され、入浴車の希望も増えそうです。

本日の活動はそれぞれの役割に分かれて活動をしました。須山は、NGO 結の中村さんと外で入浴移動車への給水を行いながら、シャワーヘッドの増設を作成しました。浴槽を使用しない場合はホースでシャワー2本だけを持ち込み、シャワー浴ができると思います。

鈴木よし子 (第2クール)



現場では、これからニーズが増えていく可能性を話していました。人手が確保できれば、2週間に1回位の支援は必要かと感じました。他県から入ればよいのですが、相談ですね。

今、入浴車とダンプ2台、先行し、出発しました。水にくんでから、ゆうかりの郷に向かいます。

新谷、斎藤、鈴木は、物資を積んでセレナで10時45分頃にゆうかりの郷に向かいます。



パットや使い捨てのお皿などを希望しているとのことで用意をして出かける予定です。キムチももらったので持っていこうかな(!)

新谷さん、小牧集会所に野菜を届けに出かけました。斎藤、鈴木は物資の補充をしています。5人でバランスよく動ける感じです。激寒という感じでなく、皆さんほっとしているところですが、気を引き締めて頑張ります。

入浴支援終わりました。一般浴の支援です。女性6名、男性1名の7名です。鈴木が中介助、斎藤が外介助、松木が誘導と見守りです。

認知症状がある方がほとんどでしたが、ゆっくり、お話をしながら入ることが出来ました。身体的には一部支援レベルです。適切な誘導のお偲で、皆さん心地よく入れたと思います。

のんびり入浴は久しぶりでした。皆さんからの「気持ちいいなー」の言葉と、嬉しそうな表情を見ていると、支援に来て良かったと心から思いました。大分県から送られて来たキムチも職員が喜んでくださいました。



ゆうかりの郷奥原での入浴支援の1人は、1ヶ月ぶりにお風呂に入る方でした。認知症があり、入浴しながら入る方です。浴室に入る事ができ、そして浴槽にしずんだ姿をみた職員が歓声をあげていました。本人も、自分でお湯を腕にかけて穏やかな表情でした。あがったあとも、足どりよくホールに戻り、職員に「よかったね。」と声をかけられ、手をたたいていました。

新谷暢宏 (第2クール)

午前午後共に入浴車の給水操作を行い、入浴支援の後、中村さん、佐々木、新谷にて被災者宅のタンスを回収、廃棄場まで置きに行きました。

タンスの数は多く、またお願いするとのことでした。

今回は貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました！皆様お疲れ様でした。



松木信治 (第2クール)



被災の入浴支援ですが、今回は施設での入浴日に利用者人数がたまたま少なかったり、支援日が日曜日になって日程が合わなかったりと、マッチングがこれからの課題と思われました。

特に在宅の方はデイサービスも休止、地域も断水して自宅のお風呂も使えない、という状況で、どうしたら良いのか分からない😞声のあげ方もわからない💧という状態のようです。

支援ベースキャンプの中村さんの話では、長野県の1クール目の活動があって、『あ、こういう方法でお風呂に入れるんだ』『こういう支援の仕方があるんだ』と、被災された方も支援する側も気がついて、ようやく入浴支援してほしいという声が集まり始めたところのようです。

ある意味、長野県の入浴支援隊が支援のカタチづくりに一役かっていると思われました。今後はもっとニーズが増大すると思いますので、支援日に合わせてニーズの調整が必要だと思います。ベースキャンプの支援メンバーは入浴介助のことは専門ではないので、現地または社協のケアマネやコーディネーターがパイプ役になって入浴希望者の声を拾うことができれば良いと思いました。



より多くの方へ入浴支援ができれば良いですね。

(気づいた点、忘れないうちに呟かせていただきました(鳥)) 今回はとても貴重な体験をさせて頂き、大きな学びのあるプロジェクトに参加させて頂きありがとうございました😊

塚家一平 (第3クール)



お疲れ様です🙇‍♂️ 今回初めて、参加させて頂きました💧

主に入浴支援車のセッティング、給水、片付けを行いました。杉本さん、斎藤さんから、利用者様が入浴出来て喜んで

いたとの事で良かったです(moon wink)(了解)

又、ゆかりの郷の職員さんと地震の話、施設の破損箇所の確認等を直で話す事が出来ました。

在宅の河越(母上)さんとも地震の話、断水の話、臨時の入浴場は車でしか行けず、大勢の人がならんでおり、入浴の時間制限もある事を聞き、お話を直で聞く事が出来ました。

活動してみてもですが、断水が継続してい



る。在宅の方、在宅入浴ニーズの把握、施設など、介護職員不足もあり、中々難しい面もありますが、入浴支援隊の介護職員の確保を感じました(満腹)

市川 剛 (第3クール)



このような活動は今回初めてでした。給水車の支援に参加しました。普段は特養の支援なので、入浴車の対応はしたことがなく、行く前から不安でしたが、忙しい中、担当の方に教えてもらいながらどうにか行くことが出来ました。

諸事情により、施設内等に入ることが出来ず、様子を伺うことが出来ませんでした。戻ってきた杉本さん・斎藤さんの笑顔を見れば、わかった気がします。



課題や要望です。入浴車を使用できる職員の育成です。私は今回初めての対応でしたが様々の人に広く普及させていかないと、その都度担当の方も教えていかないといけないとこのことで大変だと言っていました。

齋藤初美 (第2・3クール)



第3クール感想・課題・要望

七尾西岸や支援先の周辺は1週間前と比べあまり変わらずという印象。まだまだ断水や倒壊家屋もそのままという状況。入浴支援については、限られた時間

の中ではあったが、介護度の高い方にも、施設職員と協力し浴槽に浸かるということができ、とても気持ちがいいと喜んで頂けて良かった。断水が解消されるまでの間は支援の継続を希望されておりもどかしい気持ちになった。

結代表のトムさんの話では、今回はとにかくニーズが出て来ない。被災者の高齢化と支援を受け慣れていない等の地域性が強い。復興はまだまだほど遠いが復興へのニーズを持つ若者と繋がることで、未来の生活を描けるようにしていくことが復興の始まりと聞く。

結の活動報告を聞くと物資輪島や能登では倒壊した造り酒屋のお酒を350本救出したり、危険な現場から貴重品や車、家財出しをしている。大切な物が取り出せたことで、少しずつ前



にも進めるとか先の生活を考えられる状況になる。ガレキが片付き、街が少しずつ綺麗になっていくことで、またこの街で住める、住みたいと思えるような先の生活が描けるようにしてあげたいと話していたのが印象的だった。

移動の足湯カフェやご用意聞きなどで住民の方に寄り添う尊い支援をして居ると感じた。

住民の方の声で、ボラを頼みたいがどんな人が来るか不安…。支援する側の事ばかり情報がなすぎて不安に思うこともあったが、それ以上に支援される側の方がもっと不安であることを知っておくことが大事な事と改めて気付かされた。

今後の課題、要望は、

断水が解消されるまでもうしばらくお湯だけでも届けられたらいいと思う。在宅避難されている方々へもっと入浴支援が届けられたらとも思った。

入浴支援がない場合でも他の活動に協力できるようになればよい。災害支援の際の事業所の人材派遣体制も避難訓練同様に整えることができれば良いと思う。

佐々木翼 (第2クール)



お話ししたことを共有させていただきます。支援ベースキャンプのトムさんとお話しさせて頂いたのですが、本来の訪問入浴の体制（看護師1人は必要）ということの再確認。個人

宅に行った際の本人の情報（フェイスシートのようなもの）の必要性について聞きました。

やはり情報収集については、「どんなことを聞けば良いのかわからない。何を聞けば良



いかのリストがあれば助かる。」とお話があったので、塩尻社協にある様式を後日データで送ることになりました。

施設への訪問はそこに看護師がいるので安心ですが、個人のお宅に訪問する時には知識がある方がいけば理想だが、現状難しい状態ではある。なにかあったら…のことも考えお互いのために説明する必要はあるなという話も出ました。

送る様式が有効活用されれば、より入浴の情報が得られるかと思います。

事務局等の紹介 & コメント

鈴木よし子 (長野県介護福祉士会長)



介護福祉士会で、看護協会に声をかけるのも良いと思います。看護師を1名同行してもらい、一緒に支援することで、訪問先も、支援側も安心し、安全な支援ができます。今回は、支援の背景にある被害の大きさだけでなく、被災者の心の痛みに触れることが出来ました。

行政がまだ入れない隙間を、ベースキャンプに集まる仲間が支えている姿、福祉の視点だけではなく、もっと大事な生活を支える事の偉大さを改めて知る事が出来ました。

皆さんが入浴プロジェクトに参加していただきましてありがとうございました 🐼 少しでも癒しや笑顔を届ける事ができたと思います。

これからは、必要性和運営面での課題を考えながら支援を考えて行ければと思います。(ありがとうございます)本場にありがとうございました 😊 (ありがとうございます)

市原綾子 (長野県介護福祉士会事務局長)



無事にご帰還されたようでほっといたしました 😊

思いの外早く到着され良かったです。

これで入浴支援は一旦は終了となります

が、ニーズは尽きないと思います。

また次の体制を整えられるか、皆さんの報告も振り返り検討していきたいと思います。

慣れない環境の中活動いただいたこと、心より感謝いたします。入浴支援プロジェクトにご協力いただいたすべての方に感謝申し上げます。

ありがとうございました! 😊 😊

高橋つぐみ (長野県社協・ボラセン主事)



寝袋やマットお及び消耗品の買い出し。ネームプレートの作成、県社協車・レンタカーの確保等々事務局の事務雑務の全てを担当。送出し・お迎え等日曜日にも関わらず笑顔で対応。

長峰夏樹 (長野県社協・ボラセン所長)



NGO「結」との連携・仕掛け人。「災害NGO結」あつてのプロジェクト。奥能登入浴支援プロジェクトが立ち上がったからは他の業務にほぼ専念していたが、このPTの生みの親。

小池正志 (長野県社協・ボラセンアドバイザー)

【編集後記】



長峰所長から突然の依頼があり何も判らない中で準備を開始。市原・高橋さんの協力を得ながら奥能登入浴支援プロジェクト調整を行う。1クール4～5人送り出すためにかなり無理なお願いもした。慣れないライングループにも挑戦させられ、老骨に鞭を打って奥能登入浴支援プロジェクト速報もNo.1～10まで発行できた。

これも派遣された13人が詳細な報告をいただいたお陰と感謝したい。そして、入浴車のメンテを行ったり、職員送り出した塩尻市社協・岩佐さん、木曾あすなる荘の皆さんに改めて感謝・深謝申し上げたい。

小布施ハイウェイオアシスで送出しと出迎え・引継ぎには事務局として全てに臨んだが、第1・2クールの送出しには須坂市社協の青木事務局長等から激励をいただき深く感謝申し上げます。



参考資料 1 (送り出し・壮行会等)

奥能登への派遣は一年で一番寒いと云われる大寒の時期。厳寒の中での日中活動、そして宿泊場所は旧西岸小学校の体育館内でした。屈強な若者でも大変さは余りにあると思われます。

しかし、今回の派遣された13人だけが頑張った訳ではないと思います。派遣を送り出すための事業所内仲間や家族等の強力な協力・支援＝後方支援があってこそ実現のであると思います。

事業所内仲間や家族の皆さんにも改めて感謝・深謝申し上げます。

<小布施ハイウェイオアシスで送出し>

第1クール (2月1日)



ベースキャンプ (旧西岸小学校)

鈴木県介護福祉士会長

“健康にはくれぐれも留意して……”



第2クール (2月8日)



第3クール (2月15日)

木曾あすなろ荘の壮行会



小布施ハイウェイオアシス



第1・2クールの引き継ぎ会 (2月4日)

小布施ハイウェイオアシス

引継者：第1クール参加者 (竹下、杉本、須山、勝山)

引受者：第2クール参加者 (松木、鈴木・ライン)

立会者：事務局県社協 (小池・元持、高橋・ライン)



青木須坂市社協事務局長

“若きホープを含め皆様の健闘・頑張りを期待します！”



派遣職員 (松木さん) の家族も

“無事のお帰りを祈っています”



1. 活動内容	実施日	参加者	担当
2月1日	2月1日	鈴木県介護福祉士会長	鈴木
2月8日	2月8日	青木須坂市社協事務局長	青木
2月15日	2月15日	木曾あすなろ荘	あすなろ荘
2月15日	2月15日	小布施ハイウェイオアシス	小布施

備考 (備忘録、記録簿、次クールへの引継ぎ事項等)
 ・ 派遣された13名は、奥能登・大寒の厳しい環境に挑戦し、4名が2クール連続で派遣された。
 ・ 奥能登・大寒の厳しい環境に挑戦し、4名が2クール連続で派遣された。
 ・ 奥能登・大寒の厳しい環境に挑戦し、4名が2クール連続で派遣された。

